

年 頭 所 感

平成20年，2008年の仕事始めに当たりまして，私から年頭のごあいさつを申し上げます。

私は，昨年5月2日，高松市長に就任し，それから8か月をあっという間に過ごしてきました。ちょうど，昨年はいのしし年ということで，私は年男でございました。まさに年男そのままに，猪突猛進で仕事をさせていただきました。皆様方にはいろいろ御苦勞もおかけしましたが，よくついてきていただけたと思っております。今年は年が改まりまして，ねずみ年ということでございます。私も市長に就任しまして2年目になりますので，ねずみのようにきょろきょろする訳ではございませんが，少しは周りを見渡す余裕を持ちながら，ひとつひとつ施策の推進にあたっていきたいと考えております。

今年は，国全体で見ますと，国会の情勢がねじれ現象ということで，非常に不透明なところがございますが，我々地方公共団体に関わりのある地方分権改革，第二期改革が本格的に動き出し，具体化が図られるべき年ではないかと考えます。昨年秋に地方分権改革推進委員会から中間報告が出されておりますが，それを具体的な施策として改革を進めていくことが重要になるかと考えます。一言で言いますと，地方分権の第一期改革は，地方自治の中の，団体自治を確立するような改革が主体でありましたが，今回の第二期改革は，住民自治を本来の地方自治の本旨に基づいた自治として確立していくことが主体となっております。

我々基礎自治体にとりましては，住民自治を実際に実践する団体として，市民との協働と多様なパートナーシップに基づくまちづくりを，積極的に推進していかなければならないと考えております。市民の参画と市民との協働により，住民自治を目に見える形で実践していく必要があるものと存じております。

本市におきましては，先の12月定例市議会で議決をいただいた新しい総合計画のスタートの年であります。平成20年度から27年度までの8年間の計画であり，総合計画の基本構想で掲げました，本市の目指すべき都市像，「文化の風かおり 光かがやく 瀬戸の都・高松」を具体的に実現する施策を20年度から実行に移していく必要があります。

近隣6町との合併によりまして，新しく生まれました新生高松市の具体的なまちづくり

を、今年から始めていかなければならないということでございます。

この基本構想の中には、目指すべき都市像と6つのまちづくりの目標、まちづくりを実現するための政策・施策を掲げております。あわせて施策を検証するための成果目標を、それぞれの分野において掲げております。そういう中で、私が年頭にあたり皆様方をお願いしたいのは、それらを実現するために目的意識を持って仕事をしていただきたいということでございます。

そういう意味で、私がお一つの参考にしております考え方として、ブレークスルー思考があります。このブレークスルーというのは現状打破という意味ではありますが、このブレークスルー思考には、「過去の延長線上に未来はない」というサブスタイルが付けられております。

最近、イノベーションということが言われておりますが同様なことでありまして、過去に安住して現状に満足していたのでは、この変化の激しい時代にはすぐ行き詰ってしまうということになります。今までと同じやり方をやっていたのではだめになるというのがほとんどでありますので、そのときにどうすればよいのか。一つの目的を掲げて、その目的を達成するために今何をすればよいのか。あるいはいつどういうことをやれば目的が達成されるのかを考えて、それを実行に移していくこととなります。あるべき姿から帰納的に今から何をすべきか、いつ何をやるべきかを考える考え方がブレークスルー思考でございます。

ぜひともこのような考え方を参考にしていただき、日々の業務に取り組んでいただきたいと思っております。ブレークスルー思考をしながら目的を持って仕事をしていただき、私が選挙のときに掲げておりますイノベート高松を達成していきたいと思っております。

そこで、今年の年頭にあたりまして、「イノベート高松 夢と誇りを持って」というキャッチフレーズを掲げさせていただきたいと思っております。

その上で仕事のやり方として、私が当初から申しております「情報公開の徹底」「コミュニケーションの活性化」「説明責任の全う」の3つの方法論を、さらに皆様方に徹底していただきまして、それができる組織・市役所であることを心がけて、市民の目線で業務の改革と改善に積極的に挑戦していただきたいと思っております。

私自身、今年一年間、気持ちを新たにして、新生高松市のまちづくりと発展のために誠

心誠意全力を挙げて取り組んでいきたいと考えております。皆様方にはさらなる一層の御尽力をお願いいたします。